

小児血液学会造血細胞移植委員会あとがき

平成 10 年度に小児科領域と成人領域を併せた全国集計が行われて、既に 12 年が経過しました。骨髄バンクが稼働する前の 1992 年以前は、自家移植を含めても 1000 例に満たなかった年間移植総数は、その後の臍帯血バンクネットワークの順調な発展も手伝って、2006 年以降は 4000 例を超える年間移植総数を数えるようになりました。この膨大なデータを TRUMP という、優れたデータ管理プログラムに移す作業には、関係者の想像を絶するご苦労があったものと推測します。

しかし、もともとは小児血液学会造血細胞移植委員会、日本造血細胞移植学会データセンター、骨髄バンクデータ・試料管理委員会、日本さい帯血バンクネットワーク移植データ管理委員会という4つのレジストリを統合したという歴史的背景からは、現行の TRUMP も全ての疾患に対して完成されたデータベースとは言えません。また、最も古くから移植登録が始まった小児血液学会造血細胞移植登録では、時代とともにデータ項目が増加しており、逆に新しく追加された項目では古い症例のデータは欠損しているか、そもそも HLA の DNA タイピングのように存在しないものさえあります。

2010 年からは造血細胞移植登録一元管理委員会のもとで、テーマ別解析ワーキンググループが発足し、小児科領域でも積極的なデータ利用が図られ、重要な知見が得られるものと期待されます。残念ながら一部に TRUMP 入力完遂率の低い施設が見られます。登録データを基にした後方視的解析では、特に登録率と追跡率の高さが重要ですので、登録へのご協力をよろしくお願い申し上げます。また、データ項目の見直し作業も特に稀少疾患で必要になりますが、そのデータ収集については担当医師の在職中およびカルテの保管期間中でなければ不可能です。このような点につきましても、ご意見、ご助言を賜れば幸いです。

小児血液学会造血細胞移植委員会委員長 矢部普正
小児科事務局 神奈川県立こども医療センター
田渕 健、小松崎和子、長野明美、気賀沢寿人

骨髄移植推進財団あしがき

日本骨髄バンク（JMDP）は1991年に設立されました。2011年は記念すべき20周年であります。この20年を振り返ってみますと、JMDPを介した非血縁者間骨髄移植例は2001年の年間718例まで右肩上がり増加していました。しかしながら02年（715例）、03年（697例）はやや減少し、04年に778例と再び増加傾向に転じています。この減少傾向を示した要因についてはいろいろ考えられるでしょうが、集計の表1を見ますと、2000年から血縁者間末梢血幹細胞移植（RPBSCT）件数が急増（前年比2.6倍）しているのが分かります。それまで年間700例前後で推移していた血縁者間移植数（BMT+PBSCT）が02年には1202例と最高値を示し、その後は1000例前後で推移しています。PBSCTの保険適応や手技上の問題（easy access）、ドナーの負担軽減、優越性の過信（PBSCT>BMT）、HLA不一致移植などが影響したのかもしれませんが、しかしHLA一致RBMTではほとんど経験されなかった重症のGVHD（BO）など予想外の合併症の存在も明らかになり、PBSCTの適正な評価に繋がった結果かもしれません。

2006年から始まりました日本造血細胞移植学会の一元化登録システムにより、移植ソース別の治療成績の解析が可能となりました。また諸外国で広く行われてきた非血縁者間末梢血幹細胞移植（URPBSCT）ですが、2010年10月から、JMDPでもスタートしました。移植医にとっては移植片の選択肢が増えたわけです。骨髄移植推進財団は、ドナーの安全確保と移植成績の向上、患者さんのQOL改善のために今後も努力してまいります。

2011年3月

骨髄移植推進財団 データ・資料管理委員会委員長 河 敬世
データ管理事務局 森島泰雄

日本さい帯血バンクネットワークあとかぎ

日本さい帯血バンクネットワークが1999年に発足して以来、非血縁者間臍帯血移植件数は年々増加して2010年12月に7000件に達しました。また昨年の臍帯血移植件数は1018件と初めて年間1000件を越し、かつ5月と11月は骨髄バンクからの移植よりも多く臍帯血移植が実施されました。このように多数の臍帯血移植の実施が可能となったのもひとえに臍帯血を提供して下さる妊婦さんと産科病院の先生方、並びに全国11ヶ所の臍帯血バンクおよび200以上の登録病院の移植医の先生方の多大なご協力の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げます。また、昨年7月からは懸案の臍帯血移植データの一元化事業が開始され、移植医の先生方には移植データをこれまでの臍帯血バンクへの送付から日本造血細胞移植学会データセンターへ送付していただくようお願いした結果、大きな問題なく推移しておりますことをご報告申し上げます。また過日各移植施設からの100日登録および本登録データの提出状況を今後の登録施設更新の資料とさせていただく旨のアナウンスをさせていただきました結果、短期間に非常に多くの移植データを日本造血細胞移植学会データセンターにお送り下さいましたことにつきましても深く御礼申し上げます。

これまでの日本さい帯血バンクネットワークへの御協力に感謝申し上げますと共に今後共益々の御支援をくださるようお願い申し上げます。

日本さい帯血バンクネットワーク 移植データ管理委員会

加藤剛二、長村登紀子、熱田由子、磯山恵一、大西康、
小田慈、甲斐俊朗、加藤俊一、神前昌敏、幸道秀樹、村田誠

データセンターあとがき

2010年度は造血細胞移植登録一元化・電子化5年目となりました。本年度末になって懸案であった臍帯血バンクネットワークの過去データのTRUMP型式への変換と各施設への返還がようやく実現しました。名実ともに一元化が達成された記念すべき年になりました。各施設での取り込みをよろしくお願い致します。

報告書に関しては、骨髄バンクおよび臍帯血バンクネットワークの報告書をあわせた形になって3年目を迎えます。過去2年間続いた報告書の表紙の色を少し変えました。本年度も成人領域201施設、小児領域100施設と過去最大数の施設からデータのご提供をいただきました。日本の造血細胞移植登録は精度が高いと世界でも評判ですが、これもひとえに移植施設のご努力とご協力の賜物であります。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

登録に用いております造血細胞移植登録一元管理プログラム(Transplant Registry Unified Management Program, TRUMP)については、大きな修正もなく安定して動作してきています。ただ、世の中ではコンピューターのOSがWindows 7になって64ビットのOSが増えてきました。TRUMPは64ビット版のWindows 7でも動作しますが、64ビット版ではフォルダの配置が異なるため微調整が必要です。64ビット版のWindows 7を導入予定のご施設はご連絡いただければ幸いです。今後もTRUMPの安定動作、機能強化に努める所存で、近々バージョンアップを予定しています。ご意見・ご要望がありましたらデータセンターまでお寄せいただくと幸いです。

2010年度は造血細胞移植学会でも、データ利用のワーキンググループが発足しました。参加者や研究計画書の数は予想を上回るもので、これまで蓄積されてきたデータの利用と成果の臨床への還元が進むと思います。TRUMPのデータ収集項目や、集積したデータのクリーニングに関する議論も交わされており、データをみんなで集めてみんなで使う時代へ移行しつつあることを感じさせます。データセンターとしては、少し肩の荷がおりた感じがしますが、これまでとは異なるインフラとしての役割や責任は大きくなると気を引き締めております。欧米に比べればまだまだですが、本邦ならびにアジアからの研究成果をより一層発信できればと思っています。

アジアとの連携では、Asian Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT)を通じたアジア諸国からのデータ収集・国際協力も求められます。これらに興味のある先生のご参加・ご協力を歓迎します。

日本造血細胞移植学会データセンター

名古屋大学医学部造血細胞移植情報管理学 鈴木律朗、兵 理絵、熱田由子
血液疾患臨床研究サポートセンター(C-SHOT) 坪井秀樹、黒川哲二、太田貴志、
倉田美穂、伊藤千佳、酒井孝子、大野睦子